

EMとは 比嘉博士EM発見物

EMは、空気の好きな菌、嫌いな菌、酸性を好む菌、好まない菌が同居しているという、今の科学では非常識なことです。比嘉先生もこんな非常識なことを発想したのではなく、すばらしい発明、発見は、いつも神の御手による失敗を通じてされるものですが、EMもこれに当てはまると実感しています。

比嘉先生は大家族の中で育ちました

皆のためにがんばるぞ

馬や牛の世話、作物を作ることが好きで小さい頃からよく働きました

農業高校を経て琉球大学農学部へ、そして九州大学大学院へ進学

あんな難しい本読んでる

現場主義の比嘉先生は大学院でもめずらしい存在でした

影響を受けた本

危険性は専門家の間でさえ認識しておりず

当時は農薬や化学肥料の

農薬は農業に必要だ

比嘉先生にとっても農薬は価値の高いものでした

しかし・・・比嘉先生は大学院で農薬使用について疑問を持ち始めました

農園から生物がいなくなる

農園から出た農薬で海水がにこり魚介類が消えていく

それでも、その事実を目をつぶることが、農業関係者の暗黙の了解でした

比嘉先生は大きな願いを持っていました

沖縄の農業を支える農作物を作ろう!

救いたい

当時沖縄の作物は、サトウキビとパイナップル位しかなく輸入も多くなつていく中で危機的状況でした

よしミカンを沖縄の作物にしよう

無理だよ

誰も解決策を見いだせない中ミカンを専門的に作ることを比嘉先生は決意しました

大学院を終え、ミカン栽培にとりかかりました

作る品種は、早生温州(わせつんしゅつ)ミカン

亜熱帯では作ることは無理とつがえし・・・

日本では一番早い早生温州ミカンの収穫になったよ

！大成功！

年間15億円の生産額になり

沖縄産業として定着します

昭和43年

これはおいしいです

おいしい

おいしい

おいしい

このミカンとてもおいしい

味です

大雨が続く味の悪いミカンが多い中、誰もがおいしいと言ったミカンがありました

それが「光合成細菌」という微生物を使ったミカンでした

比嘉先生はこれを機に微生物の研究を始めます

ミカンが6ヶ月もくさらない

しかし、この頃より比嘉先生は長年の農薬使用により農薬中毒症になり、日々辛い生活を送っていました

農薬症ですこのままだと50才まで生きられない

体が苦しい中、必死で微生物の研究を続けていきます

あの日、出張前の比嘉先生は研究した安全な微生物を混ぜて留守をまわすからまわすまわす

もったいないからかけていきました

草とプランターの山東菜にかけていきました

出張から帰ってきてー うあああなんだこれは！

微生物の混合液をかけた、草とプランターの山東菜が、勢いよく青々としげっていたのです

先生すごい

何が起きたんだ

おめでとう

誕生EM

EMはー

EM使っていたら体の調子がとてもいいよ

農業にとどまらず次々すばらしい結果が出ました

このEMどンドン広めていこう

使う人が安価で自分で増やして使えていこう